

第一部

管絃 平調音取、越天樂

楽器紹介

管絃 陪臚

舞樂 胡飲酒

第二部

越天樂 筆策の唱歌体験

越天樂今様 歌唱体験

越天樂今様

芝祐靖作曲

「舞風神 序破急」

※プログラムは変更になる可能性があります。
予めご了承下さい。

わらびでしか聴けない「音」がある
— わら音 —

蕨市立文化ホールくるる等文化芸術振興事業

悠久のしらべ
雅楽の千年を楽しむ



2017

1月15日(日)

開演14:00(開場13:30)

蕨市立文化ホールくるる

※JR蕨駅西口より徒歩3分。
駐車場はございません。

チケット/全席自由 2,000円

チケット取扱い/ くるる窓口
蕨市民会館
銀行振込・郵便振替

お問合せ/蕨市立文化ホールくるる

TEL /048-446-8311

<http://warabi-fmpc.or.jp/kururu/>

主催/蕨市立文化ホールくるる
共催/蕨市・蕨市教育委員会

※未就学児童の入場はご遠慮下さい。



《 解説 》

第一部

ひょうじょうのねとり

平調音取

音調べの短い楽曲で、楽器の音を整え、会場をその調子の雰囲気満たします。笙と箏、笛と鞆鼓、琵琶と箏の順に演奏されます。

えてんらく

越天楽

平調の越天楽は、今日では雅楽の曲の中で最もよく知られた曲の一つです。曲名の由来などは解っていませんが、他曲にはない優雅な旋律で、比類なき名曲として親しまれています。この旋律は、後に、越天楽今様、さらには民謡の黒田節に取り入れられ、種目を越えて広がりました。

ばいろ

陪臚

林邑（ベトナム）起源の曲とされ、日本へは婆羅門僧正と林邑僧仏哲が伝え、天平勝宝4（752）年、東大寺大仏開眼供養会で演じられた記録があります。出陣に際して、この曲を七返奏して、「舎毛音」というものが有るとこちらが勝つと言われ、或いは、戦勝を祈願して演奏したとも伝わっています。

こんじゅ

舞楽 胡飲酒

胡国の人が酒に酔ってこの曲を奏し、その姿を模して舞にしたとされ、舞人は酒杓（さけいさご）を形取ったという桴を手を持って舞います。髪を振り乱し、酒に酔った様子をゆったりとした舞振りが表現する特徴的な一人舞で、楽曲も、繰り返し聴かれる旋律の中に大らかな楽しさのある曲で、舞は左方舞楽中の難曲と言われています。

第二部

えてんらくいまよう

越天楽今様

「今様」は、その当時の流行り歌のことをいいます。「春の弥生のあけぼのに....」の歌詞で知られる「越天楽今様」は、平調の「越天楽」の旋律に歌詞を付けて歌ったもので、平安時代の終わりから中世にかけて流行しました。

たしきちやうのねとり

太食調音取

まいふうじん じよはきゆう

芝祐靖 作曲「舞風神 序破急」

雅楽古典様式で作曲された「舞風神」は序破急の三楽章から成ります。ミュージックフロムジャパンの委嘱によって作曲され、2010年2月、福島で初演の後、ニューヨーク、及びワシントンDCでの「芝祐靖 雅楽の宇宙」公演で演奏され、好評を博した作品です。曲は、京都の三十三間堂のたくさんの仏像を守るかのように、一際高い雲座に乗った風神像にイメージを得て、堂内の静謐の佇まいから、穏やかな仏像群、最後は風神が飛び降りて軽やかに舞う姿が軽快なリズムと旋律で表現されます。

《 プロフィール 》

伶楽舎 れいがくしゃ

1985年発足の雅楽演奏グループ。音楽監督・芝祐靖。雅楽の古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品にも積極的に取り組み、国内外で幅広い活動を展開。国内各地の主要ホール、海外ではアメリカ、ヨーロッパの著名なホールや音楽祭等に招聘されて演奏。また、古典曲や現代曲、復元曲のCD等も多数録音。他に、解説を交えた親しみやすいコンサートやワークショップを開催、雅楽への理解と普及に努める。<http://www.reigakusha.com>

当日から15日間チケット・半券で
指定店舗にて10%オフ

美味しい!
旨い!
上手い!

うまいっーボン
あります

江戸田喫茶飲食組合
PCサイト <http://warabi-t.net>